

# 阿部光典ゲンゴロウ類コレクションのデジタル画像化

さのしんご  
佐野真吾 (資料取扱員)

あべてるつね  
阿部光典ゲンゴロウ類コレクションとは、昆虫研究者である阿部光典氏によって収集されたゲンゴロウおよび水生甲虫類を中心とした約479種30,619点の標本です。このコレクションは、479種というだけあり様々な種が入っています。例えば世界一大きなゲンゴロウや色彩の美しい種、また、微小種と言われる数ミリの種まで様々です。私の仕事はそれらの標本を撮影しデータベースに加えるというのですが、今回はその中でもゲンゴロウの雌雄や種類によって異なる撮影方法や面白さをご紹介します (表紙右図)。

## ゲンゴロウはオスとメスとで写り方が違う？

ゲンゴロウの標本を撮影していて最初に気付いたのは、オスとメスとでは写り方が異なるということでした。メスは何となく撮ってもそこそこまともに撮れてしまいますが、オスはどうもうまくいかないのです。オスは撮影用のライトが反射してしまい色や模様が潰れてしまいます。しかし、これには理由がありました。オスとメスでは翅の形状が異なり、オスは翅がつるつるして光沢があるのに対して、メスの翅は細かいしわがあります (図1)。この違いが撮影をする上で影響を及ぼしていました。ちなみにメスの翅にしわがあるのは、交尾をする際に、オスの前脚にある吸盤を付きやすくするためであるという説と、逆に激しいオスの交尾行動から、前脚の吸盤を外しやすくするためであるという説があります (図2)。

## 男子 (オス) でも美しく写りたい！

…というのはいささか主観的な表現ですが、オスもなんとか綺麗に撮りたいと



図1 オスの翅 (左) とメスの翅 (右)。



図2 ゲンゴロウの交尾(左)とオスの吸盤(右)。思い工夫をしました。工夫したのはライトの位置です。両側から当てるライトを少しずらし、左側から当てるライトは左側の翅後方から上に伸びるように当て、右側から当てるライトは右側頭部・前胸背・上翅に当たるように設置します (図3)。ちなみにここで重要なのは、右側頭部に当たる光を少女マンガのキャラクターのイメージで、両方の複眼がキラリと光るように反射させることです。これにより美男子的なゲンゴロウが撮影できるのです (図4)。

## 女子 (メス) の写真映りについて ~カリスモデルなゲンゴロウモドキ~

先にも述べたように、メスは比較的簡単に綺麗な写真が撮れてしまいます。翅にしわがあるため、光が全体的に回りくっきりと写るのです。美人はどんな風に撮っても美しく写るといった感じでしょうか。しかし、その中でも特にカリス

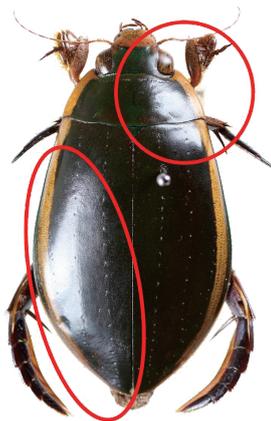


図3 光を当てる場所。

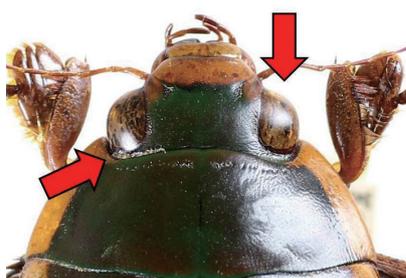


図4 複眼がキラリ。



図5 ゲンゴロウモドキ属 (左) とその上翅アップ (右)。

マモデル級なのがゲンゴロウモドキ属です。ゲンゴロウモドキ属のメスの翅には深い20条の縦溝があり、この縦溝がゲンゴロウ属のメスのしわとは比べ物にならないくらいライトアップ効果をもたらすのです (図5)。さらに頭部後方・前胸背・上翅には無数の点刻が散布されており、光が体全体に行き渡り、くっきりとした輪郭と美しい模様の写真写りが可能となるのです。

※ちなみにゲンゴロウモドキ属のメスには縦溝のないメスもいるので注意！

## チョコボールが続くと飽きてくる…

ゲンゴロウ好きな私でもクロゲンゴロウ、トビイロゲンゴロウの撮影が続くとさすがに飽きてきます。これらの種は、模様がなく黒いだけのゲンゴロウなので、標本箱に並んでいるとただの黒丸です。これを写真室に籠もり延々一人で撮影しているとチョコボールを撮っているような感覚に陥ります (図6)。そのため、時々模様が入ったゲンゴロウを撮影してみたり、以前撮りはしましたが気に入らなかったゲンゴロウを撮り直したりして息抜きをしています。そして現在は約1,000点のゲンゴロウを撮り終えました。

昆虫標本をスタジオで撮影するというのは博物館だからこそできることです。引き続きスキルを高めながら撮影していきたいと思います。



図6 クロゲンゴロウがずらりと並んでいる様子。